

国重要文化財「旧小諸本陣」大修理の概要をお伝えします

国重要文化財旧小諸本陣

旧小諸本陣は、北国街道小諸宿の市町で本陣と問屋を兼ねた上田家の建物です。旅行者が休泊のため利用したりしました。かつては敷地内に関連する様々な建物があり、街道沿いに長屋建築が立ち並び、奥には上田家の隠宅や大名等が休泊する格式高い座敷が存在していました。なお、座敷については、現在小諸駅前前の公園に移築復原されており、この秋、イタリアンレストラン「小諸本陣主屋」としてリノベションされます（14ページ上段参照）。

小諸は関東と北陸、甲州をつなぐ中継地であることから、日本各地から多くの旅行者が小諸を訪れ、本陣を利用する者もいました。当時の古文書から、幕府の役人や朝廷の勅使、佐渡金山で産出された金銀を運ぶ佐渡奉行、加賀藩な

どの大名家や善光寺詣の参詣者など、多種多様な旅行者が訪れていたことが分かります。

工事でわかった本陣の姿

この小諸の歴史を伝える重要な建築物を後世に残していくため、小諸市は国や県から補助を受けて大修理を実施しています。解体中に建物に残る過去の痕跡を丁寧に拾い上げ、さらには、考古学、文献史学、自然科学（部材の放射性炭素年代測定を実施）方面からの検証も加えながら数々の状況証拠を整理・分析した結果、19世紀初頭に建設されて主に旅館として利用されたものと判断しました。しかし、新たな疑問も生じています。本建物は当初、問屋場を併設していると考えられています。

今後の工事の進め方

現在、修理工事は解体を終え、旧小諸本陣の実態も見えてきました。今後、いつの時代のどんな形に復原するかを決めて、令和6年3月中に耐震補強を含む本体組立のための実施設計を完成させます。

また、一連の工事に合わせて、完成後の建物の維持と活用を計画的に進めていくため、保存活用計画の策定作業に入ります。これは、令和6年4月から入る予定です。工事に並行して、周辺環境の整備にも着手します。

江戸時代の小諸城下町 今の本町、市町、与良町、荒町一帯が小諸の城下町である。初代小諸藩主仙石秀久が整備を始め、遅くとも元和8年（1622）頃には整えられた。

交通の要衝に位置していることから各地からの物資が集散し、商工業が発展した。また多くの人が集住していたので一大消費地でもあった。寛保2年（1742）に土石流が襲い、本町を中心に甚大な被害を受けているが、迅速に復興している。近代は商都として一層栄え、現在の中心市街地に帰結する。

小諸宿 城下町の一角、本町、市町に設けられた宿場。両町に本陣と問屋場が置かれ宿場の経営にあたった。

問屋場 問屋役を筆頭とする宿役人が詰め、公用人馬の継立等、宿駅業務を執り行った役所。

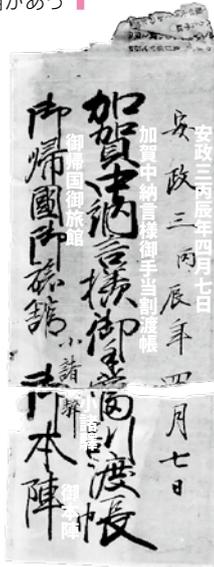
小諸宿と小諸駅 宿場のことを宿駅、駅とも言ったので、時に小諸宿を小諸駅と表記する古文書も出てくる。（右下参照）。ちなみに鉄道の小諸駅（当初は停車場と言った。）は明治21年（1888）、直江津-軽井沢間（のちの信越線）に鉄道が敷かれた時に開業した。

発展の要、近代小諸駅 現在の小諸駅とその周辺はかつての小諸城内、武家屋敷や曲輪があった場所である。何故この位置が選ばれたかといえば、明治維新後、小諸城が廃城となり、関連建物などが取り壊されたり払い下げられたりして、開発の余地があったということ、町より低い場所にあり、鉄道を通すのに地形的にも都合が良かったからといわれている。

小諸駅の開業にあわせて相生町がつくられ、駅と相生町を中心に新規開発が進んだが、反面、鉄道の敷設はこれまでの商品流通システムを根本から変えてしまい、小諸の商勢は大打撃を受けてしまった。

かかる事態に対して小諸の商人は製糸業を軸に商工業の近代化を図り、落ち込んだ商勢を盛り返していく。このとき駅周辺には製品の輸送や、原材料の集積を考慮して製糸工場や繭問屋、生繭やその他貨物を保管する倉庫が建設され貨物の積み下ろしの場が形成された。さらに、大正4年（1915）に佐久鉄道（現、小海線）が小諸駅に接続されると、佐久方面からの人や物が大量に集まるようになる。

おおよそそのような経過で小諸駅とその周辺は鉄道による物流の拠点となり、今も小諸を支えている。



旧小諸本陣の工事中に見つかった江戸時代の古文書

旧小諸本陣の活用に向けて
工事の主たる目的は文化財がもつ本質的価値の保護です。

まだ計画段階ですが、環境美化のほか、活用に必要な設備のうち文化財的価値を損壊させまいと恐れがあり本体に設置できないものについては、旧小諸本陣の周辺に配備していく予定です。

その価値が文化財の特徴、魅力であり、「歴史を活かした」と言う場合の、活かしていく部分となります。これまでの現場見学会に延べ四〇〇人の方が訪れ、旧小諸本陣の価値を説明してまいりましたが、今後は建物の価値を生かした利用方法を考えていく段階になります。多くの皆様から広くご意見を伺い、みなさんと共に考えていきたいと思えます。お力添えをお願いします。



工事前の旧小諸本陣正面外観



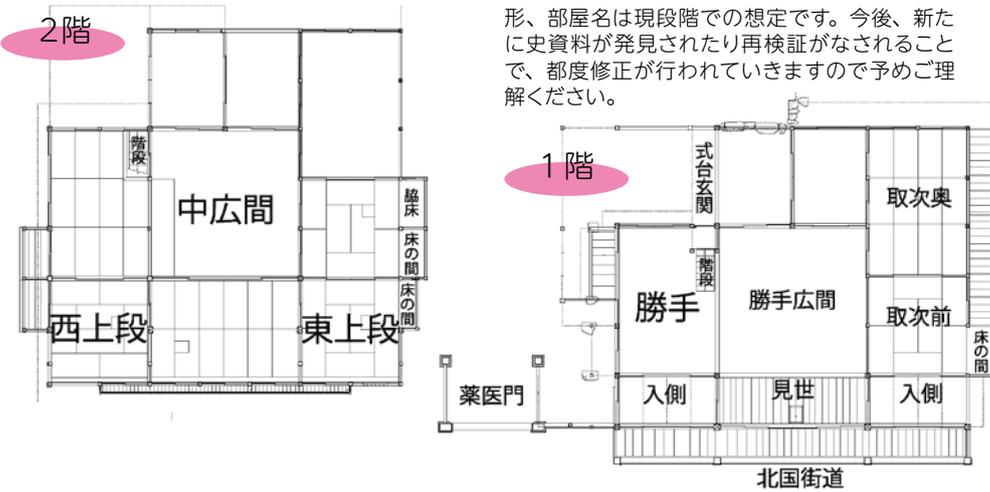
▲小諸市公式HP
旧小諸本陣
工事の記録

旧小諸本陣復原案平面図

復原方針

- まずは文化財としての価値の保全を行う。そのうえで建物の活用を図る。
- 建設当初（天井板の墨書から文化11年（1814）あたり）の姿に復原。ただし前面道路境界上の安全性を考慮し、セットバックする。
- 建物の本質的価値を損なわないことを前提に滞在時間を延ばすための設備を整える。活用に必要な建物の価値を損壊してしまう恐れがあるものについては、周辺を整備して配置する。
- 生涯学習の場としての利用のほか、江戸時代の本陣建物の魅力を引き出せる利用方法を考える。史料展示を行うが常設的な設備は限定的にし、可能な限り建物全体を多目的に利用できるようにする。

形、部屋名は現段階での想定です。今後、新たに史資料が発見されたり再検証がなされることで、都度修正が行われていきますので予めご理解ください。



▲旧小諸本陣の工事現場見学には、のべ400人が訪れました！

旧小諸本陣・大手門・三之門地区の文化・観光交流拠点ビジョンを策定します



▲市町本陣から小諸駅までの歴史的建築物が集積された地図の概要

現在、多極ネットワーク型コンパクトシティの取組みとして、小諸駅周辺における官民連携による“暮らしを豊かにする新たな賑わいづくり”を進めています。

小諸駅周辺では、ここ数年で30店舗ほどの新規出店が相次ぎ、来訪者が休日を中心に1日5,000人～7,000人ほどと増加しつつあります。特に、旧小諸本陣、大手門、三之門の3つの国重要文化財と小諸駅を結ぶ歴史的建築物の集積された地区では、回遊者が2019年に比べ2倍になるなど人流の変化が顕著です。また、本陣主屋でのレストランや大手門隣接の旧商家でのカフェの新規出店をはじめ、宿泊施設「脇本陣の宿・傘屋」の営業、寺社巡りイベント「こもろ浪漫」、そして大手門公園内のまちなねひろばや駐車場ガーデンでの多様なイベントなど、様々な皆さんによる主体的な取組みが展開されています。

そこで、旧小諸本陣の修理復原を契機に、個々の歴史的建築物などが一体的に活用され、主体的な取組みがこれまで以上に創出されることにより、来訪された方にとって一段と居心地の良い地区となるよう、新たな文化・観光交流の拠点化を目指すための方針や進め方をビジョンとしてまとめていくものです。

ビジョンは本年11月を目途にとりまとめ、市民の皆さまのご意見を適宜いただきながら、今後の具体的な取組みへと発展させていきます。



▲養蓮寺（市町）での「こもろ浪漫」の様子

11/4(土)・5(日)

旧小諸本陣の活用方法や新たな文化・観光交流の拠点化について、市民の皆様からのご意見を募集する機会を設けます。ぜひ皆様の声をお寄せください！

▶時間 13:00～16:00

▶場所 市立小諸図書館

▶対象 どなたでも参加できます

- ☒ 文化財・生涯学習課 文化財・生涯学習係（旧小諸本陣に関すること）
- ☒ 都市計画課 都市計画係（新たな文化・観光交流の拠点化に関すること）